



# 12 運河

## ■運河データ

現在、日本に残されている運河の多くは、港湾区域内で利用されている運河と、かつての河川舟運の遺構として残されている運河です。前者については、現在も港湾施設として利用されているものが多いのですが、後者に関しては単なる遺構として残されたり、見学施設となったりして運河としての機能を失っているものが多いのです。また、開門など運河独特の施設も残され、文化施設としての活用や観光施設としての舟運の復活を考えている地域もあります。阿武隈川は、平成10年度より東北では一番目の「河川舟運整備事業」の対象となっており、運河との関連整備や活用も考えられます。

### ●地域の運河の歴史データ

運んだもの

### ●地域の運河の歴史データ

どんな船が通った

### ●全国の運河の歴史データ

運んだもの

### ●全国の運河の歴史データ

どんな船が通った

イメージ  
サンプル

(現在、日本の運河50選などからイメージをまとめている)

## ◆今後、何に使えるか

今使っている運河の例：

- レクリエーション活動空間 - ポート遊び、釣り
- 観光要素（景観） - 水辺の緑地、観光施設の整備
- 生物の生息環境 - 汽水域の動植物

## ■海の豆知識－阿武隈川の舟運

阿武隈川の舟運は、1664年（寛文4年）に江戸商人の渡邊友意が福島から江戸まで御城米を運ぶことを幕府から請け負ったことから盛んになりました。しかし、運賃が高く、何度も積み替えがあり、輸送日数がかかったため、幕府は河村瑞賢に御城米の輸送を命じました。瑞賢は、風の影響で荒浜沖まで出航できない時には、牡鹿郡小淵浜を經由して江戸まで運ぶといった海路を開発しました。これが東廻り航路の開発で、米などを安価でかつ安全に江戸へ運ぶことができるようになりました。